

## 平成 2 5 年度第 5 回

### 流山市地域包括支援センター及び地域密着型サービス運営協議会議事録 要旨

#### 1 開催日時

平成 2 5 年 1 1 月 1 4 日（木）

1 6 時 0 0 分から 1 7 時 1 0 分まで

#### 2 開催場所

ケアセンター 4 階第 1 会議室

#### 3 出席者

黒田委員、稲田委員、安藤委員、渡部委員、池上委員、鈴木（孝）委員、小山委員、越智委員、奈良委員、岩井委員、大久保委員、市岡委員、

出席 1 2 名・欠席 4 名

#### 4 次第

##### 議題

（１） 地域包括支援センター第三者評価の報告について

（２） その他

#### 5 議事（要旨）

##### ・会長

本日の出席状況について、出席 1 2 名、欠席 4 名で、半数以上の出席により本協議会の成立について報告する。

議題（１）について、事務局から説明を。

##### ・事務局

資料 1 地域包括支援センター第三者評価概略を説明します。

第三者評価の実施目的はこの先地域包括支援センターが地域包括ケアの構築をしていく上でセンター運営を公正公平に実施しているかどうか、効果的に行っているかどうかを第三者によって評価・チェック

することによって地域包括支援センターの運営を充実させる狙いがある。

同時に、評価事業を市民に広く公表することによって地域包括支援センターの存在、運営内容を市民に PR する狙いもある。

さらに、包括センターの職員がさらなるステップに意欲をもって取り組んで欲しい狙いも含んでいる。

実施方法としては運営協議会から評価員を 5 名選出し、平成 24 年度の実績を評価対象とし、評価シート、ヒアリング調査により、実施した・ほぼ達成した場合は◎、一部実施したと評価した場合は○、できなかったら×で付す。さらにこれだけでは評価しきれないところ、工夫して取り組んだところ、次に包括支援センターに取り組んで欲しいところを特記事項として記した。

今回初めて行った上で、気づいた部分もあり、評価員の意見としてもスケジュールの関係で包括の職員が庁舎に赴きヒアリング調査を行ったが、直接現場を見て評価した方がいいのではないかとこの意見が多かった。来年度は各包括に一日ずつ評価員が直接赴き評価を実施する。

市民に広報する方法は市のホームページにシートをそのまま載せ、実施目的とスケジュール等を併せて解説をつけて掲載する。また、紙ベースの資料を市役所や各包括、森の倶楽部などの公共施設に備え置き自由に閲覧できるようにする。

来年度 3 月上旬に運営協議会で新たな評価事業の説明し、3, 4, 5 月に評価、ヒアリングをし 7 月に運営協議会に報告し、市民に公表する。

委員から事前に指摘があり、南部包括支援センターの個人情報の取り扱い項目の評価員の特記事項の表現が異なっているのではないかとこの意見があったが、転記ミスがあったのでこれを訂正する。

また、北部包括支援センター総評部分、右側次のステップに期待したい点に、地域住民に今以上に北部地域包括支援センターを周知していただけるように徹底していく旨を委員の了解があれば追加する予定。評価を終えた上での評価員の意見を述べていただきたい。

#### ・委員

基準表はいただいていたが、初めは戸惑いはあった。

各センターの資料の出し方、説明の仕方に違いがあったが、評価員成果と課題について議論の中で評価員の間に目安ができてきた。来年につながる議論が出来てよかった。

・ 委員

自身としても初めてのことであったので、評価員になってよいのかと戸惑いもあったが、振り返れば一番勉強になったのは自分自身ではないかと思う。

・ 委員

各包括支援センターが緊張感を持ってこれから仕事をしていくのではないかと期待する。

自分が利用するのだったらと個人の思いが良かった面と悪かった面出てしまう。

いくつかの項目で内容が重なるものが出てきたので、改善すべき。

時間的に厳しく甘い所も出てしまった。

・ 委員

初めは資料の内容を読むので精いっぱいだった。

プレゼンが上手い所に引っ張られた懸念があるので、次回に活かしていきたい。

現場を見ないと現実と合致しているかが実際に見てみないとわからない。

評価段階も三段階でいいのか。より多面的に見ることが出来る項目づくりをしていくべき。

・ 委員

急に抜擢されたが、時間が短いので、それぞれを捉えきれられなかった。包括の自己評価に引っ張られてしまうこともあった。

ケアマネなので関わり方に違いがあり、きちっとした評価ができたのか不安がある。

自己評価が厳しいところには、その評価より上の評価を上げることが難しかった。包括はそれぞれに多少の力量の差はあるが、ヒアリングを通して一生懸命やっていることがわかった。

・ 事務局

委員の意見をさらなる事業の発展に活かしたい

- ・ 会長

資料の作り方としては見やすい作りとなっている

評価の仕方、評価の内容、公表方法、次年度以降に対しての意見、その他の意見を委員に出していただきたい。

- ・ 委員

短時間の中で評価をまとめていただいた。

包括支援センターによって自己評価に差が出ている。着眼点、ポイントを明確にしたほうが、適切な評価ができたのではないか。

- ・ 会長

自分に厳しく他人に厳しい所、自分に甘く他人にも甘いなど自己評価が分かれてしまうところもある。あまりにも格差が出るのはどうなのか。

- ・ 委員

公表の仕方はホームページに掲載は難しいのではないか。どのように評価を行ったのかをはっきり表示してほしい。

- ・ 会長

評価の仕方を知ることで結果を見る目も変わってくる。

- ・ 委員

それぞれ5人が、利用者として行ったわけではなく、調査の方法もよく考えていかなければならないと感じた。

- ・ 事務局

このチェックによって、直すべきところがわかって次のアクションにつなげていくことが重要というところを公表する際に載せていきたい。

- ・ 会長

定期的に外部から見ていくことで、当事者たちが振り返るチャンス、発信していくチャンスと言う事を協議会の意見として出していきたい。

効果的な公表方法について意見はあるか。

- ・ 委員

形式的な問題であると思う。縦に項目を書いて横にセンター名として一枚で評価、包括の取組みが見られるようにしたほうがいいのではないか。

- ・ 会長

画面と紙両方で他との比較ができるようになればいい。

- ・ 委員

項目ごとにセンター間を比較するのはまずいのではないか。自己評価に評価員が引っ張られているという意見もあった。評価はまちまちであるが内容ではそれほど変わらないものもある。センターごとに公表して比較はしないほうがいいのではないか。

- ・ 委員

良い悪いという見方で皆さんに見てほしくはない。出来れば事実を公表する形のほうがいいのではないか。

- ・ 会長

記号による単純比較だと見た目で判断されてしまう。

文章で地域特性に合わせてどのようなことをしているのかを比較させる方法もある

- ・ 委員

5段階評価すべきとの意見もある

今回は初めてなので比較の観点は避けたほうがいいのではないか

- ・ 委員

南部包括の評価が悪かったからといって、北部包括を利用しようというものではない。

公表する目的が第三者評価をしたということの周知ならば表などで示す必要はないのではないか。

どういう取り組み・努力をしているのかのアピールの公表ならば、その内容を示し、それに対しての自己評価及び評価員のが分かるようにすればいいのではないか。

- ・ 会長

私たちは流れや内容を知っているが、初めて見た人が前情報のない状態でここから何を想像するかに注意しなければならない。

- ・ 委員

今回は現場を見ずにヒアリングの形で行った、説明が上手い所に引っ張られることもあったので、◎の数の比較で評価されたら包括の努力が伝わらない。市民の方にも包括の努力・取り組みが伝わるように公

表すべき。

- ・ 委員

高齢者で受ける側で意見だが、老人会の集まりで話を聞いても、高齢者も包括の事も理解していない。地域性があるので一概に統一して評価できないと思うが、取組み等の周知につないでほしい。

- ・ 委員

公表するときに、優劣をつけるわけではなく特記事項を中心に見てほしいとの旨を掲げればいいのではないか。

- ・ 委員

評価及び公表の目的を前置きとしてきちんと載せたほうが内容に入りやすいのではないか。

- ・ 委員

評価することについては◎○×で構わないが、今回はそれは載せないほうがいいのではないか。取組みの内容と評価員のコメントのみにしたほうがいいのではないか。文章で評価の内容をみてもらったほうがいい。

- ・ 委員

評価有りきになってしまっている。このシートをみて初めて地域包括支援センターの取組みについて知ったこともある。包括の仕事の内容が分かるようにと、委員会の評価の仕方が前段階で分かるようにしたほうがいいのではないか。

- ・ 委員

市民の方が見るだけでなく各包括に見てもらいたい。自分たちの活動の評価を振り返る際に◎等に出したほうが包括支援センター自身がなぜうちは○で他は◎なのかと考えることによって次のステップにつながる。

- ・ 会長

評価の宛先で公表の仕方が変わるのではないか。市民を評価の宛先にするのか、それとも包括の次の活動につなげるために包括を宛先にするのかが問題になるのでは。

包括の活動やこの評価事業を市民に知っていただくと最初にあったので、今回の一番の宛先は市民になり、包括の職員は副次的な宛先に

なるのではないかと思う。そのような認識でよろしいか。

- ・事務局

その通りです。

- ・委員

◎を付けるのか、外すのかの結論が出ていない。

なぜ他の包括は二重をつけたのか包括同士で聞き合ってみたらいいのではないか。×が付いている包括もなく、どの包括もよくやっているのでこのまま出したほうがいいのではないか。

- ・会長

提案として、文字数が多くなると文字が小さくなるのでそれを直す。そして文章を先に置き、最後に記号が来たほうが差異が大きいものに目がつられなくていいのではないか。

- ・事務局

異論はない。評価員の思いからすればそのまま載せたほうがいいのではないか。

- ・会長

○×評価というのは難しいことだが、それをやったという事実も残していかなければならない。色々考えた上でこのような結果になったこと、次回は違うステップに入ることが報告書の中で提示できればいいと思う。

- ・委員

会長の意見に異論ありません。

- ・事務局

デザイン・見た目は十分考慮し、専門用語などには解説を付け、市民が包括の活動知っていただけるように作成していきたい。また、包括支援センターによる評価も特記事項を省いている場合もあるので、バランスを事務局で調整し、改めて配布したい。

- ・会長

空欄ではなく、「実施している」などとしたほうが市民の方も理解して頂けるのではないか。

いきなり評価に直結せず前置きをし、それを見て頂き趣旨を理解していただいたうえで、中身の評価を見て頂けるような紙面作り、プロ

セスを入れ、用語の解説が入るようにしてほしい。

また、今後の地域包括の活動を支えていくためのものであり、良し悪しの評価ではないことを公表の中に盛り込んでいくことを大事にすることによろしいか。

- ・ 委員

異論ありません

- ・ 事務局

この第三者評価は流山市行政が運営協議会にお願いしたものであり、流山市が責任を持って報告します。

- ・ 会長

次年度のスケジュールについてはどうか。事務局からは今回のタイトなスケジュールを見直し、実際に現地調査を一日一件ずつ行くと提案されている。地域包括としても、下半期に評価結果が出ても対応が取りにくくなってしまうので事務局としても上半期に評価を出していくとしている。

とりあえず、次年度のタイムスケジュールについてはこのまま事務局に任せる事でよろしいか。

- ・ 委員

異論はありません。

- ・ 委員

1 ページ目の概要も公表するのか。

- ・ 事務局

公表します。

- ・ 委員

配置職員の数にも違いがあるが、市民の方も手薄な包括があると思ってしまうのではないか。「募集中」などのコメントを書いたほうがいいのではないか。

- ・ 事務局

そのような点も含めて、地域包括支援センターの置き方、包括には法令で定められた3つの職種を地域特性に適した人数を配置していることをわかるように明記していく。

- ・ 会長



他に意見もないようなのでこの件については一区切りとします。今回かなり細かいところまで意見も出ているので、事務局は反映して欲しい。

それでは議題（２）その他について事務局から報告を

- ・事務局

次回は３月１３日木曜日に市役所会議室にて開催を予定します。

議題時間等詳細は追ってご連絡します。